

授業科目名 (英訳)		B4 病理学総論 <General Pathology>				担当者氏名	【責任者】 病態生物医学 教授 松田 道行		
配当学年	3年生	授業回数	58	開講期	春学期	授業形態	講義	※授業日時は学期前に別途配布する「専門科目授業時間割表」に記載	
[授業の概要・目的]									
<p>【一般目標 GIO】 病理学とはヒトの病気の成り立ちを学ぶ「基礎と臨床の架け橋」となるコースである。授業は、総論(前期)と各論(後期)の二コースより構成されるが、この二つは縦糸と横糸に例えられる。総論では疾患が発生する基本原理を整理する。炎症あるいは腫瘍といった疾患の基本概念は、臓器ごとの特殊性はあるにせよ本質的な点においては同じである。病理学総論の授業では、疾患に関する用語・概念の習得を最も重視する。医学専門用語を正しく理解して使えることが、臨床科目の習得には必須であるからである。なお、本学の学生諸君に期待される使命を鑑みれば、英語の医学用語も同様に理解できるようになってもらわねばならない。また、すでに解剖学、組織学を学習したところであるが、病理学を学ぶ過程で復習を繰り返すことにより、各臓器の持つ組織構築と病態との間にどのような関連があるのかを認識してもらいたい。もちろん、病態を理解するためには、分子論的基礎に立つ生化学・生理学の知識もまた必要であり、こちらも折に触れて復習する必要がある。</p> <p>【行動目標 SBOs】 1) 病因に基づく疾患の分類ができる。 2) 疾患の構造基本単位が、遺伝子、蛋白質、細胞、組織、器官、そして個体の階層にあり、相互に密接な関連のあることを説明できる。 3) 各々の病態における組織学的変化を時空間的に述べることができ、その転機を説明できる。 4) 全身性病変、臓器局在病変について、病変分布、系統化の機構を説明できる。 5) ヒトの主要な疾患のコンセプトを説明できる 6) ヒトの病態解明へむけての基本的研究手法を理解し、病因解明への研究手法を提案できる。</p>									
[授業計画と内容]									
以下のような内容について、授業を行う予定である。									
1	オリエンテーション	16	〃	31	実験病理学特論	45	腫瘍(3)・腫瘍論実習		
2	病理学序論	17	神経疾患	32	〃	46	〃		
3	細胞傷害	18	〃	33	腫瘍(1)	47	腫瘍特論(1)		
4	〃	19	病理組織実習(炎症)	34	〃	48	〃		
5	炎症(1)	20	〃	35	循環障害特論	49	腫瘍(4)		
6	〃	21	循環障害(1)	36	〃	50	〃		
7	炎症(2)	22	〃	37	病理組織実習(感染症・免疫)	51	腫瘍(5)		
8	〃	23	循環障害(2)	38	〃	52	〃		
9	炎症(3)	24	〃	39	高血圧・動脈硬化	53	腫瘍特論(2)		
10	組織修復	25	感染症・免疫(1)	40	〃	54	〃		
11	代謝障害(活性酸素)	26	〃	41	病理学総論中間考査	55	染色体・遺伝子異常		
12	〃	27	感染症・免疫(2)	42	〃	56	小児・新生児の疾患		
13	細胞・組織の適応性変化	28	〃	43	腫瘍(2)	57	病理学総論期末考査		
14	〃	29	感染症・免疫(3)	44	〃	58	〃		
15	代謝障害(その他)	30	〃						
※詳細は学期前に別途配布する「専門科目授業時間割表」冊子に記載します。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
①筆記試験を90%、レポートの成績を10%として評価する。合計点の60%以上をもって合格とする。 ②各講義あるいは実習にあたり、小テスト、レポートを基本的に毎回課す。 ③コース中に1回、最終日に1回、合計2回の筆記試験を行う。過去問の一部は病態生物医学教室のホームページに掲載されている。 ④追試は冬学期に1回のみ行う。追再試の受験届は不要である。前年度不合格者も自動的に追試験対象者となる。なお、追試問題の難易度は、本試験と同等である。追試は筆記試験が100%で評価する。									
[教科書]									
Kumar, Abbas, Fausto, Mitchell: Robbins Basic Pathology 8th edition, 2007. SAUNDERS, ELSEVIER.									
この時期に英語の病理学の教科書を是非とも通読していただきたい。この時期の学生諸君に必要なことは、疾患の概念および専門用語を日本語と英語の両方で身につけることである。なお、4月に9th editionが出る予定である。									
[参考書等]									
日本語の病理学の教科書については、病理学各論コース指定のものでよい。									
[その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)]									
<p>【連絡先】 本講義にかかる全ての問い合わせは、下記まで 基礎病態学講座病態生物医学 松田 道行 電話:075-753-4421 電子メール matsudam@lif.kyoto-u.ac.jp</p>									

## B<sub>4</sub> 病 理 学 総 論

授業回数	月 日 (曜日)	時 限	講 義 内 容	担 当 者			講 堂
				所 属	職	氏 名	
1	5月7日(月)	I	オリエンテーション	医学部	教授	松田	基三
2	〃	II	病理学序論	〃	〃	〃	〃
3	9日(水)	I	細胞傷害	〃	〃	〃	〃
4	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
5	11日(金)	I	炎症(1)	〃	〃	〃	〃
6	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
7	14日(月)	I	炎症(2)	〃	〃	〃	〃
8	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
9	16日(水)	I	炎症(3)	〃	〃	〃	〃
10	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
11	18日(金)	I	代謝障害(活性酸素)	名大	〃	豊國	〃
12	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
13	21日(月)	I	再生・治癒・線維化	医学部	〃	松田	〃
14	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
15	23日(水)	I	代謝障害	〃	准教授	田中	〃
16	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
17	25日(金)	I	老化(その他)	〃	〃	〃	〃
18	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
19	28日(月)	I	病理組織実習	神大	講師	原	〃
20	〃	II	(炎症・代謝障害)	〃	〃	〃	四実

## B<sub>4</sub> 病 理 学 総 論

授業回数	月 日 (曜日)	時 限	講 義 内 容	担 当 者			講 堂
				所 属	職	氏 名	
21	5月30日(水)	I	実験病理学特論	医学部	教 授	松 田	基 三
22	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
23	6月1日(金)	I	神経疾患特論	生命科学	〃	垣 塚	〃
24	〃	II	〃	研究科	〃	〃	〃
25	4日(月)	I	病理学総論中間考査	〃	〃	全教員	四 実
26	〃	II	<b>8:45-10:15</b>	〃	〃	〃	〃
27	6日(水)	I	循環障害(1)	医学部	〃	松 田	基 三
28	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
29	8日(金)	I	循環障害(2)	〃	〃	〃	〃
30	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
31	11日(月)	I	腫瘍(1)	同志社	〃	高 橋	〃 〃
32	〃	II	〃	女子大	〃	〃	〃
33	13日(水)	I	腫瘍(2)	〃	〃	〃	〃
34	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
35	15日(金)	I	高血圧・動脈硬化	医学部	〃	横 出	〃
36	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
37	20日(水)	I	腫瘍(3)・腫瘍論実習	〃	〃	高 橋	〃
38	〃	II	〃	〃	〃	〃	四 実
39	22日(金)	I	感染症・免疫(1)	〃	助 教	平 塚	基 三
40	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃

## B<sub>4</sub> 病 理 学 総 論

授業回数	月 日 (曜日)	時 限	講 義 内 容	担 当 者			講 堂
				所 属	職	氏 名	
41	25 日 (月)	I	感染症・免疫 (2)	医学部	助 教	平 塚	基 三
42	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
43	27 日 (水)	I	腫瘍 (4)	同志社	教 授	高 橋	〃
44	〃	II	〃	女子大	〃	〃	〃
45	29 日 (金)	I	感染症・免疫 (3)	医学部	助 教	平 塚	〃
46	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
47	7 月 2 日 (月)	I	病理組織実習	〃	〃	〃	四 実
48	〃	II	(感染症・免疫・循環障害)	〃	〃	〃	〃
49	4 日 (水)	I	腫瘍 (5)	同志社	教 授	高 橋	基 三
50	〃	II	〃	女子大	〃	〃	〃
51	6 日 (金)	I	染色体・遺伝子異常	医学部	助 教	平 塚	〃
52	〃	II	小児・新生児の疾患	〃	〃	〃	〃
53	9 日 (月)	I	腫瘍特論 (1)	〃	教 授	武 藤	〃
54	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
55	11 日 (水)	I	腫瘍特論 (2)	〃	〃	野 田	〃
56	〃	II	〃	〃	〃	〃	〃
57	13 日 (金)	I	病理学総論期末考査			全教員	四 実
58	〃	II	<b>10:30-12:00</b>			〃	〃
						修 士	
						修 士・知財	